

■開催日時 2011年7月11日(月)18:30～20:30

■開催場所 法政大学市ヶ谷田町校舎 T414教室

■出席者 23名

■開催概要

研究会のスタートとして、「社会や組織、文化、経済、環境、地域などを情報とシステムの視点からみることにより、これまで気づけなかった新たな課題や問題解決へのヒントを見出すとともに、情報システム自身の研究課題や方法論の抽出と体系化にチャレンジする」という本研究会の趣旨の基調講演として、中嶋聞多氏に「情報とシステムの視点でのもの見方(情報システムは実態であるとともに、ものごとの見方でもある)」についてご講演いただいた。

■講演題目 「情報とシステム」という視点

■講演者 法政大学大学院政策創造研究科教授/信州大学特任教授 中嶋聞多氏

■講演概要

1. 「人間中心の情報システム」という我々情報システム学会の立ち位置(情報システム学の原点)の再確認
2. システムの視点

- ・様々な視点での情報システムの捉え方。
- ・情報システム学会での“情報システム”の捉え方(人間活動を含む社会的なシステム、人間の情報行動を支え発展に寄与するもの・・・)と、“情報システム”の定義の議論の必要性。
- ・SEの視点(システムと環境、全体システムとサブシステム、実体化はサブシステムとしての情報システムを実体化)と方法論の必要性
- ・システム認識と関係概念、要素間フローに着目した情報システムの分類。
- ・基本原理の分析から問題解決のサイエンスへ、というオープンシステムサイエンスの見方。

3. 情報の視点

- ・記号論としての情報。
- ・記号は表現が前景であるのに対し、情報は内容(表示義、共示義)が前景である。
- ・コミュニケーションシステム(情報の前提である)とコンテキスト。

4. ブランド論から

- ・ブランドは記号であり情報である。
- ・ブランド構築(送り手と受け手の戦略的マッチング)とブランド・エクイティ・モデルについて。
- ・地域ブランドと地域ブランディングについて(実例を交えて)。

中嶋氏は地域活性化をキーワードに地域イノベーション、地域マーケティング、地域ブランディングの研究に取り組んでいる(地域ブランディングというアプローチ(前編)日経ビジネスオンライン 2011.3.8、地域ブランディングというアプローチ(後編)日経ビジネスオンライン 2011.5.10)。

■質疑(ディスカッション)と今後に向けて

- ・地域活性化の具体的成果、社会の現場とアカデミアとの関わり方、仮説実証の有効性、オープンシステムサイエンスのスコープなどについて質疑と意見交換が行われた。
- ・本講演を“人間中心の情報システムとは?”、“情報システム学とは?”を考える上での問題提起と捉え、今後、様々な分野の研究者や開発者の成果を学んでいながら、情報システムの視座とでもいべきものについて議論し、研究課題や方法論について考えていきたいと思います。

以上